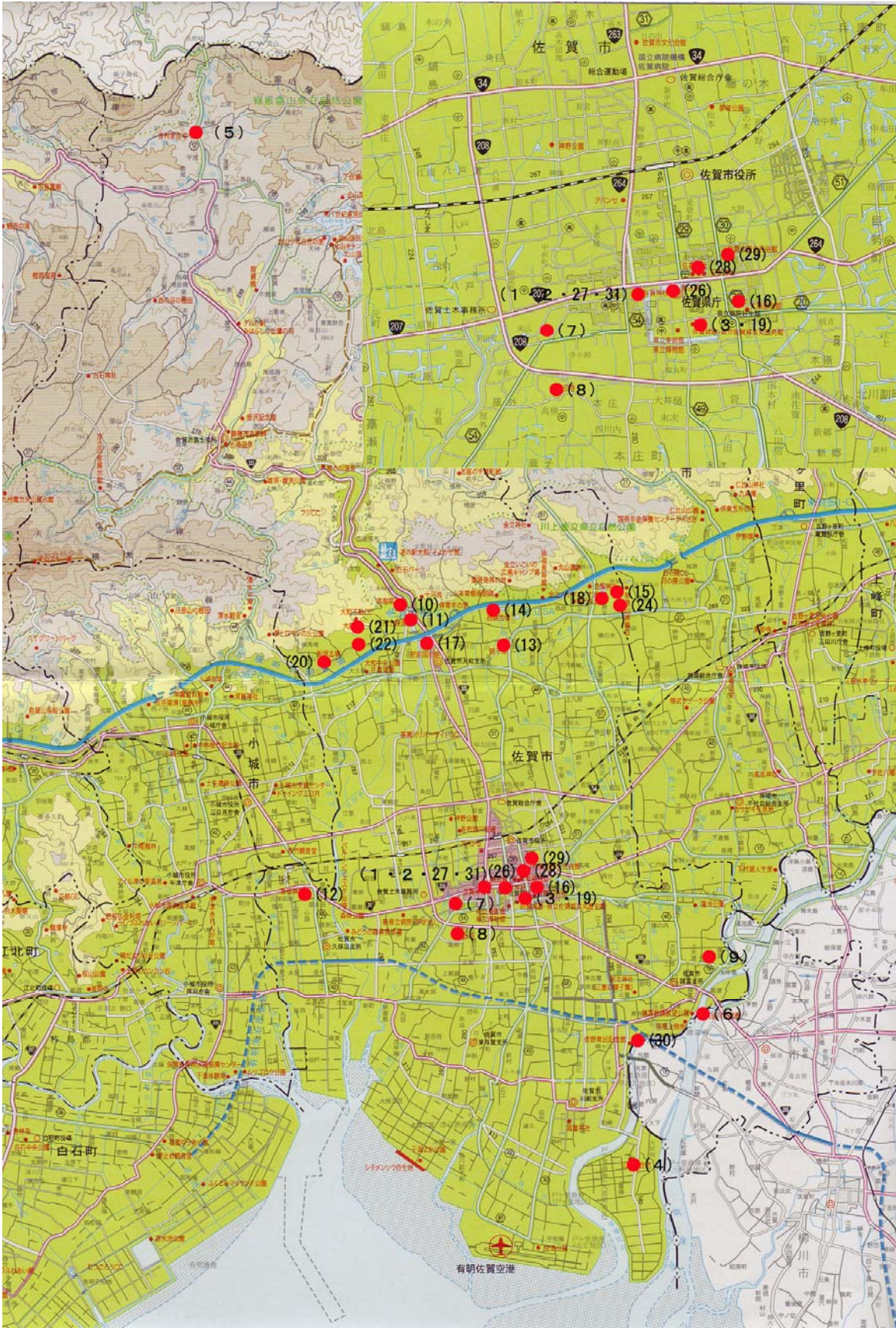


佐賀市の文化財散歩

国・県指定有形文化財(建造物)、史跡・天然記念物、登録文化財



佐賀市

重要文化財

(1)与賀神社楼門



佐賀市与賀町2-50

淀姫大神を祭神とする古社。楼門は、入母屋造り、銅板葺きの礎石建物。創建年代は不明だが、15世紀中頃の建築と推定される。佐賀県下最古期の建築である。

重要文化財

(4)山口家住宅



佐賀市川副町大字大詫間

筑後川の中州に所在する。建築年代は19世紀初頭と推定している。建物内部は縦に二分され、土間と座敷に分かれる。屋根はじょうご造りとも呼ばれる。

佐賀県重要文化財

(7)石造肥前鳥居 慶長八年の銘あり



佐賀市本庄町 本庄神社
本庄神社は欽明天皇のころに創始される。この神社には、慶長8年(1603)、慶長11年(1606)の銘のある2基の鳥居があるが、慶長8年銘のものは、この神社の二の鳥居とされている。柱の銘から鍋島直茂の奉納になるものであることがわかる。

重要文化財

(2)与賀神社三の鳥居及び石橋



佐賀市与賀町2-49

鳥居は石造肥前鳥居で、慶長8年(1603)鍋島直茂夫人が奉献した。石橋は反り橋で、慶長11年(1606)直茂が寄進したもの。

重要文化財

(5)吉村家住宅



佐賀市富士町大字上無津呂

脊振山地の中心部に所在するこの住宅は、山間部に多く見られる棟を一直線につくる直屋の代表例で、建物に残された墨書銘から、天明9年(1789)に建築されたことがわかる。建物内部は、土間、居室、座敷及び寝室に3分割される。

佐賀県重要文化財

(8)高伝寺釈迦堂



佐賀市本庄町本庄 高伝寺
この釈迦堂は、安置されている木造釈迦如来坐像及び両脇侍像とともに承応4年(1655)の制作。釈迦堂には、柱などの軸部、二手先組物や二軒扇垂木など、禅宗様建築の特色がみられる。2像は、鍋島勝茂が承応2年に長崎で購入した赤梅檀の材を用いて、承応4年、京の仏師宗仁(林長右衛門尉国次)が制作。

重要文化財

(3)佐賀城鯨の門及び続櫓



佐賀市城内2

佐賀城は慶長年間龍造寺氏の村中城を整備拡張した平城。享保11年(1726)に天守閣を含む全てが焼失。本丸一帯は、天保6年(1835)の火災の後再建されたが、鯨の門もこのときの再建。棟の両端に青銅製の鯨が載っている。門には、明治7年の「佐賀の役」時の弾痕が残る。

重要文化財

(6)旧筑後川橋梁(筑後川昇開橋)



佐賀市諸富町大字為重、福岡県大川市大字向島

筑後川河口より約8.5km上流に位置する我が国に現存する最古の昇開式の可動橋。佐賀線の建設に際して、筑後川の舟運に配慮し、可動橋として計画され、昭和7年4月に起工、10年5月に竣工した。

佐賀県重要文化財

(9)銅造明神鳥居 寛永十七年の銘あり

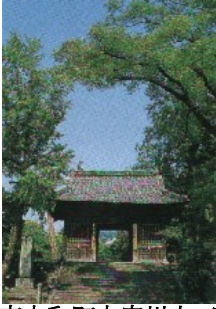


佐賀市諸富町大字大堂 大堂神社
大堂神社は、弘安2年(1279)創始と伝えられる。銅造鳥居は、大堂神社の三の鳥居(寄進時は一の鳥居)とされ、寛永17年(1640)の造立銘をもつ県内唯一の銅製の明神鳥居である。島原の乱に出陣した小城支藩初代鍋島元茂が、戦勝祈願成就に寄進したもの。

佐賀市

佐賀県重要文化財

(10)実相院仁王門



佐賀市大和町大字川上 実相院

実相院は、寛治3年(1089)、河上神社(与止日女神社)の僧円尋が、裏山を開き御堂を建てたことに始まると伝えられる。仁王門は八脚門で、門の両妻部の内部に仁王尊像を安置している。門の額に「寛永二十年」(1643)とあることから、門の建造は江戸時代前半と考えられ

史跡

(13)銚子塚



佐賀市金立町大字金立字八本杉

佐賀平野における最古期の大型前方後円墳。墳丘は前方部を西に向け、全長98mで佐賀平野2番目の規模。後円部に比べ前方部が低く幅の狭い典型的な古式古墳。周囲には幅約20mの周壕をもつ。墳丘は後円部3段、前方部2段築成と推定され、葺石を持つ。

史跡

(16)大隈重信旧宅



佐賀市水ヶ江二丁目

佐賀城下の東部、佐賀藩の中級武士が居住した会所小路の南側に位置し、一部2階建て、草葺き一部瓦葺きの一般的な武家住宅の様式をよく残している。明治の元勳の一人、早稲田大学の創始者としても知られる大隈重信は、天保9年(1838)に信保、三井子の長男として生まれ、明治元年に東京へ移るまで、この家で生活した。

佐賀県重要文化財

(11)与止日女神社西門



佐賀市大和町大字川上 与止日女神社

与止日女神社の創建は欽明天皇25年(564)と伝えられる。応保年間(1161~1163)肥前国一の宮になる。本殿、幣殿、拝殿は、文化10年(1813)に焼失し、文化13年(1816)に再建された。西門は四脚門で、元龜4年(1573)の建立とされる。

史跡

(14)西隈古墳



佐賀市金立町西隈大字金立

推定径40m、高さ4mの円墳で、墳丘上から形象埴輪、円筒埴輪の破片や葺石も確認されている。内部主体は初期横穴式石室で横口式の冢形石棺を納める。4枚の板石を組み合わせた棺身に、かまぼこ状の寄棟屋根型蓋を載せる。円文や連続三角文の装飾がみられる。5世紀末の築造と推定される。

史跡

(17)肥前国庁跡

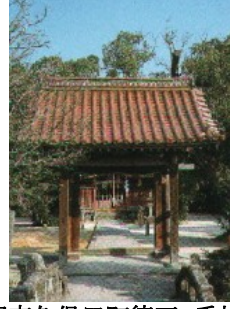


佐賀市大和町大字久池井

奈良から平安時代前期の肥前国の中心となった役所跡で、昭和50年から10年間の発掘調査が実施され、国庁跡の全容が明らかとなった。南北約105m、東西約77mの長方形に巡る溝跡と、築地によって囲まれた空間に、前殿・正殿・後殿が南北中軸線上に並び、前殿の東西両側に各2棟の脇殿を配置する。南門と築地塀が復元されている。

佐賀県重要文化財

(12)香椎神社四脚門



佐賀市久保田町徳万 香椎神社

香椎神社は、安元3年(1177)頃、この地の地頭窪田因幡守藤原利常が、矢櫃の森に創建したが、天明頃現在地へ社地替えとなったと伝える。この門は1間1戸の四脚門で、神門又は楼門と呼ばれる。建立年代は、構造様式からみて江戸時代初期頃と推定される。

史跡

(15)帯隈山神籠石



佐賀市久保泉町大字川久保・神埼市神埼町西郷

佐賀市の北部山麓に築かれた古代山城で、帯隈山を中心に切石を並べた列石線が約2.4kmの長さで一周し、途中、北面に門跡1カ所、南面に水門推定地3カ所がある。昭和16年に発見、39年に発掘調査が実施された。神籠石は、7世紀頃の築造とされるが、正確な年代、目的、性格等は明らかでない。

佐賀県史跡

(18)関行丸古墳



佐賀市久保泉町大字川久保

全長55mの前方後円墳で、葺石、埴輪等の施設は認められない。内部主体は初期横穴式石室で、墳丘北側くびれ部に向かって開口する。石室内に3つの屍床がつくられ、5体の遺骸が埋葬されていた。石室内には赤色顔料が塗られる。副葬品は鏡4面、金銅製冠帽、貝輪、三環鈴などが出土した。築造時期は6世紀初頭と考えられる。

佐賀市

佐賀県史跡
(19)佐賀城跡



佐賀市城内一丁目5番の一部他龍造寺氏の村中城を拡張整備したもので、鍋島直茂・勝茂親子により慶長16年(1611)に完成。慶長年間の絵図に五層の天守閣などが描かれる。二度の大きな火災に遭いほとんどが焼失、その後藩政の中心であった二の丸がに再び焼失したため、天保9年(1838)直正が本丸を新築した。確認調査で建物礎石などの遺構が発見されている。

佐賀県史跡
(22)小隈山古墳



佐賀市大和町大字川上字小隈

脊振山系南麓の独立丘陵上に立地する前方後円墳。みかん園造成により改変を受けているものの、全体として墳形を保っている。全長約63mと推定される。確認調査で円筒埴輪・形象埴輪が出土した。内部主体は明らかでない。出土遺物より6世紀中頃の築造と考えられる。

天然記念物
(25)下合瀬の大カツラ



佐賀市富士町北山大字下合瀬字山神

山神の社境内にあり、木自体が御神体として崇敬されていた。水平根回り13.8m、樹高34m、枝張り周囲37mで、推定樹齢1000年、全国第2位といわれる。カツラは、九州から北海道にかけての山地に自生する雌雄異株の落葉高木で、4月から5月に紅色の小さな花が咲く。

佐賀市

佐賀県史跡
(20)船塚



佐賀市大和町大字久留間字東全長114mの県下最大の前方後円墳。後円部頂から冢形埴輪が出土している。内部主体は、後円部に内面を赤く塗られた堅穴式石室であったと伝わる。墳丘の周囲には幅15m前後の周濠が巡る。その周囲を径12m前後の陪塚(ばいちょう)を取り囲む。現在7基残るが、かつては11基あったという。築造年代は5世紀中頃と推定される。

天然記念物
(23)カササギ生息地



県内8市8町

カササギは佐賀県の県鳥であり、カチガラスの愛称で親しまれている。カラス科に属し、雑食性で、北半球全域に生息するが、日本では佐賀平野を中心に分布する。1月から6月が繁殖期で、4月から5月に巣立ちをする。

佐賀県天然記念物
(26)佐賀城址の楠(群)



佐賀市城内

県史跡「佐賀城跡」の一帯には、総数120株あまりのクスが生えている。特に、濠端には樹齢300年を越えると推定される大楠が並ぶ。これらのクス群は、佐賀藩祖鍋島直茂が慶長年間に拡張・強化して近世の佐賀城に構築した頃に、松とともに植えられたものと推測されている。

佐賀県史跡
(21)大願寺廃寺跡



佐賀市大和町大字川上字大願寺大願寺地区の五社明神を中心とする一帯にあつて、文献記録に登場しない奈良時代の寺院である。現存する遺構は五社明神境内に建物基壇が残り、礎石約50個がおおよそ4地区に分散している。千葉県で出土した宝亀五年銘鐘に記された「佐賀郡椅寺」に当たるとい説もある。

天然記念物
(24)エヒメアヤメ自生南限地帯



佐賀市久保泉町大字川久保字蜂谷

古くは平安時代の小野小町に「腰折山のひめあやめ」と詠まれたエヒメアヤメは、アヤメ科の多年生草木で、4月の中旬頃紫色の花をつける。別名タレユエソウ。寒冷・乾燥の地を好み、日本は分布上の南限地で、本県その他、愛媛県・山口県・宮崎県の一部の自生に限られる。

佐賀県天然記念物
(27)与賀神社の楠



佐賀市与賀町 与賀神社

与賀神社境内に、クスの巨木が3株あり、この内拝殿南側にある1株が指定されている。樹齢600年以上と推定され、根回り25.5m、目通り幹回り9.8m、樹高20.5mで、枝張り東西37m・南北25mである。堂々とした老樹の風格に感じ入った俳人、青木月斗の句碑が境内に建てられている。

登録文化財
(28) 徴古館



佐賀市松原二丁目

昭和2年に、鍋島家所蔵資料を展示するための博物館施設として建てられた。正面ファサードは、二本一組の列柱を持つ半円形の車寄せと、二階の列柱からなり、背面は簡素な意匠である。県内の鉄筋コンクリート建造物としては早い時期のものであり、また、本格的な洋風意匠をもつ点にも特徴がある。

登録文化財

(31) 与賀神社本殿・弊殿・拝殿



佐賀市与賀町2-49

境内中央に西を向いて立つ権現造社殿。本殿は前室付きの物館施設として建てられた。正面ファサードは、二本一組の列柱を持つ半円形の車寄せと、二階の列柱からなり、背面は簡素な意匠である。県内の鉄筋コンクリート建造物としては早い時期のものであり、また、本格的な洋風意匠をもつ点にも特徴が

その他の施設

佐賀県立博物館



佐賀市城内一丁目

佐賀県の総合博物館。佐賀県の歴史や文化に関する展示が常設で行われているほか、様々な企画展、テーマ展等が行われている。また、多くの佐賀県の指定文化財が所蔵されている。

登録文化財
(29) 野中烏犀園



佐賀市材木町一丁目

寛政8年に生菓「烏犀園」の製造・販売の許可を受け、このころに冷善楼(れいぜんろう)と呼ばれる座敷と店部分が建設されたと推定される。広く街路に面した漆喰壁と、屋根の大破風及び看板を吊す屋形が江戸時代の商家の風情を今に伝えている。

史跡

(30)三重津海軍所跡



佐賀市川副町・諸富町

幕末に佐賀藩が洋式船による海軍教育を行い、藩の艦船の根拠地として、さらに修船・造船を行う場として経営された施設の遺跡。安政5年(1858)藩の船屋を拡張し、御船手稽古所を設けたことに始まる。洋式艦船の修理や国内最初期の実用蒸気船である凌風丸が建造された。

佐賀城本丸歴史館



佐賀市城内二丁目

佐賀が輝いていた幕末・維新期を分かりやすく伝える。天保期の佐賀城本丸御殿の遺構を保存しながら復元。木造復元物としては全国最大級の規模。

佐賀県農業試験研究センター農具資料館



佐賀市川副町大字南里

県内の農具類、生活用具、古文書類の収集が進められ、その収集資料は約2000点にのぼっている。江戸中期から昭和初期を中心とした資料は体系的に整理され、常設展示されている。

